

NOSAI

2024
秋号

Vol. 15

ひょうご



特集

農業でつながる食育の輪
農フルエンサー／SNSでつながる、広がる
兵庫の酪農を未来へつなぐために

共済掛金は 口座振替が便利です

引受の適正化およびコンプライアンス(法令遵守)の観点から、共済掛金等の納入は便利な口座振替をお勧めしています。既に口座振替をしている方でも名義変更など口座情報に変更があった場合は、改めて手続きが必要です。

農業経営に役立つ情報をお届け!

農業共済新聞 2カ月無料 試し読みキャンペーン実施中!

お申し込みはお近くの事務所または
組合ホームページまで。

- 月4回(水曜日)発行
- 年間購読料5,520円▶3,300円
(消費税、送料込み)

※本組合が2,220円負担します

お問い合わせは お近くのNOSAI事務所まで

事務所

神戸	戸	078-220-0044
阪東	神	079-550-0027
西脇	播磨	079-424-1390
三木	多可	0795-21-9002
小野	加東	0794-62-3433
加西	播磨	0790-21-9058
赤松	相	0791-45-1101
たつの	太子	0791-63-4800
宍粟	粟	0790-60-3004
佐用	用	0790-60-3002
豊岡	岡	0796-42-4133
南但	但	079-665-0215
香美	新温泉	0796-92-2410
丹波	篠山	079-550-9010
丹波	波	0795-74-1474
洲本	淡路	0799-28-1653
南あわじ	あわじ	0799-42-6210

家畜診療所

阪東	神	078-991-4531
西脇	播磨	0794-63-2211
但馬	馬	0796-42-4135
丹波	波	0795-72-0244
洲本	淡路	0799-28-1650
南あわじ	あわじ	0799-42-1037



「11月末に第一子が生まれます!」と苗村さん夫妻

「プロの農家とは何なのかという基準に気付いてから、土づくりをこだわることになりました。野菜の品質を良くするためには病気、土壌、水の対策を実践していくことが大切です」と話すのは、(株)播磨ライフ代表取締役の苗村武大さん(40)。たつの市で2016年に設立された同社では現在、黒大豆2・4鈴、ニンニク1鈴、水稲1鈴などを栽培し、ニンニクは加工品化して近隣の道の駅を中心に販売しています。土づくりには、地元のしょうゆメーカーの搾りかすを土壌改良用で使用。そうすることで微生物の活性化を促進し、土質が良くなるそうです。「お客さんの『おいしい。また買いたい』という声に自信になります。今後は、持続可能な農業を実現するために、加工品の内製化や作業の機械化などで経営改善を図っていきます。また、依頼を受けた作物も栽培し、地域にも貢献したいです」と意欲を見せます。

Instagramは
こちらから



お互いへのメッセージ

武大さん 家庭円満にしていきます。

家族みんなで一緒に頑張っていきたいです。 彩希さん

編集後記

今回は、食育特集として収穫体験の様子を取材してきました。きらきらとした笑顔を見せながら楽しそうに野菜を収穫する子どもたちの姿に、とても元気をもらいました。神戸学院大学の菊川先生のお話では、子どもの頃に農家さんと直接関わったり、農業に触れたりする機会があるだけでも、子どもたちの将来に大きな刺激があるとのことでした。まずは、興味を持ってもらうことが大切ですね。(小西)



「おじいちゃんと
稲刈りの休息」



表紙紹介

「トライアンドエラー!」

たつの市

(株)播磨ライフ

人物画の部 兵庫県知事賞

農フルエンサー ~SNSでつながる、広がる~

拡散力が魅力のSNS。仕事の様子や人となりを気軽に知ってもらうことができ、新たな集客にもつながります。実際にSNSを活用している3人の農家を紹介します。



和牛ティー

加入者の声



ないとうかつひこ
内藤勝彦さん(76)
市川町

湿潤害で大豆が生育不良
営農活動を継続する
手助けになりました

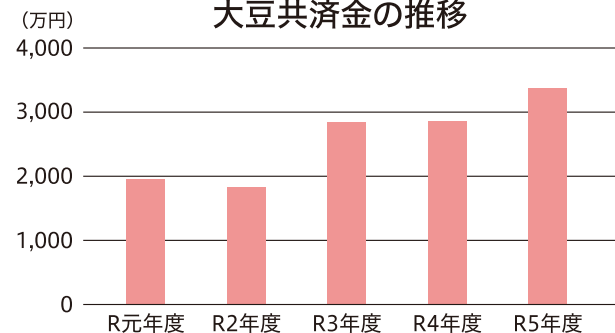
私が代表を務める(株)東川辺営農は、1992年に発足し、2001年から20年以上、大豆を栽培しています。現在は、白大豆の種子と黒大豆などの栽培や、地域との交流も兼ねて、子どもたちの大豆収穫体験や田植え体験も実施しています。今後は農福連携で、大豆の選別などを始めたいです。

昨年は播種後に雨が続き、白大豆種子と黒大豆ともに湿潤害による生育不良が発生しました。収量は6割ほどとなりましたが、予想以上に支払われた共済金が売り上げの補填となり、資金を回す手助けをしてくれました。

いくら一生懸命に作っても、天気まではコントロールできません。もしも被害に備えるために、今後も加入を続けていきたいです。

近年の異常災害により、 支払共済金は増加傾向にあります！

大豆共済金の推移



共済金の支払対象となる主な事故

土壌湿潤害、雨害湿潤害、風水害、干害、病害、獣害、鳥害、虫害

令和6年産の大豆共済損害評価が始まります。被害の状況を調査し、共済金を計算するために現地確認を行いますので、収穫前に被害申告(損害通知)をしてください。
共済事故による減収が発生し、共済金の支払いが見込まれる場合は、各事務所からお知らせする指定期日までに、被害のあった全ての耕地について被害申告をお願いします。

大豆共済

大豆の損害評価が始まります

遠隔診療、始まりました！

人に対するオンライン診療が幅広く推進されている中、家畜においても、2023年4月に家畜共済診療点数表に「遠隔診」が新設され、保険適用となりました。

遠隔診療は、農家からの患畜の状態を聴取し、送信された写真や動画と併せて、担当獣医師が診断・投薬等の指示を行います。実施に当たり、各農家は医薬品等の管理や投薬のための技術習得など事前のレクチャーが必要となりますが、獣医師の往診までの待ち時間の短縮、診療費の削減、さらには早期発見・治療により患畜の損耗軽減につながります。

実際に遠隔診療を取り入れた農家からは「画像やお互いのやり取りの記録が残るので、再度確認することができる」「忙しい時は自分のタイミングで対応できるので助かっている」「普段使っているLINEでやり取りできるので使いやすい」などの意見が寄せられています。

遠隔診療に興味がある方は、最寄りの家畜診療所にお問い合わせください。



ふん尿の浄化設備の一部

南あわじ市の酪農家である(株)工ノモトの榎本安良さん(59)は、妻のかずみさんと2人で乳牛45頭を飼育しています。榎本家が現在の場所まで酪農を始めて約100年、自身が本格的に酪農を始めてからは10年になります。

仕事の効率化や経費削減の観点から、4年前に自動給餌機やふん尿の浄化設備を新たに導入。他にも、空いた時間でタマネギ栽培などにも取り組み、酪農に限らず経営を多角化することで、昨今の飼料や燃料の高騰という課題を乗り切っています。

榎本さんは「自動給餌機は、単に仕事の効率化だけでなく、牛の健康の維持にもつながっている」と話します。以前は給餌を1日に3回行っていましたが、導入してからは、1日6回に分けることで与える飼料の量や時間を適宜調



自動給餌機

節できるようにになりました。これにより、採食した際の胃内の急激なPHレベルの変動を抑え、消化器官の負担の軽減につながり、「牛の治療回数を減らすことができます」と言います。

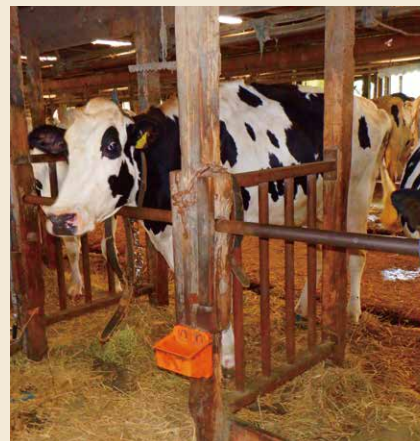
昨今の物価上昇をはじめ、酪農を取り巻く状況が変化しつつある中、「今後も現在の経営規模を維持し、牛を健康的に育てていきたい」と意欲を見せる榎本さん。そのために作業の機械化や粗飼料の自給、多角経営にも取り組んでおり、「工夫しながら酪農を続けていきます」と笑顔で話します。



粗飼料を機械に入れ、破碎する榎本さん

100年続く酪農家 課題に対応しながら酪農を続ける

仕事の効率化や経費削減の観点から、4年前に自動給餌機やふん尿の浄化設備を新たに導入。他にも、空いた時間でタマネギ栽培などにも取り組み、酪農に限らず経営を多角化することで、昨今の飼料や燃料の高騰という課題を乗り切っています。



兵庫の酪農を

未来へつなぐために

兵庫県の畜産といえば、世界に名の知れた神戸ビーフを筆頭に肉用牛を思い浮かべる方が多いと思います。しかし、兵庫県には1万2300頭もの乳牛が飼養されています。酪農は新鮮な牛乳を消費者に届けるためになくはならない産業ですが、2003年に830戸あった酪農家数は、飼料代や燃料費の高騰により、ここ数年減少傾向が加速し、現在200戸までなっています。

牛乳は生鮮食料品なので、新鮮なほどおいしく、牧場で飲む搾り

たての味は格別です。酪農家の皆さんは、安全安心な牛乳を生産するために、牛の健康管理や快適性を追求し日々頑張っています。

兵庫県の乳製品を積極的に消費することで、県内の酪農家さんを応援しましょう。



収入保険と私

就農歴:25年

ふじもとけんいち
藤本憲一さん(69)、
くみ
久美さん(64) 多可町



酒米、水稲、黒大豆、ニンニクなど約10畝を夫婦で栽培しています。

長年、水稲共済に加入していましたが、酒米の収量や売上が年々減少していたので、もしものときの備えとして、2021年に収入保険に切り替えました。収入保険は最大で収入の約8割までの減収をカバーでき、他の品目も対象となるのが魅力的です。

令和5年産の酒米で、天候不順やイネカメムシの被害を受けて7~8割の減収となった品種もありましたが、保険金を受け取れたのでとても助かりました。天候不順や病害虫の被害は毎年予測できません。収量や品質が落ちて売上が下がってしまったときに、収入保険に加入していれば収入が安定し、安心して農業経営ができます。今後のリスクを考えて、加入をお勧めします。

NOSAI
ピックアップ

夫婦二人三脚で

かやだいざぶろう
加悦大三郎さん(75)、
ふみえ
富美恵さん(72) 豊岡市



「さまざまな困難も、夫婦で支え合ってきた。ここまで成長できたのも妻がいたから」と話す加悦大三郎さんは、妻の富美恵さんと共に繁殖和牛を飼育し、就農から56年目を迎えます。

高校生の時に「毎日牛肉を食べられる時代が来る」と教わり、当時は珍しい多頭飼育を決意。「父が競り市で一番高額な牛を買ってきてくれて、高校3年生の時に3頭からスタートし、その系統が今も続いている」と話します。

「今いる母牛は全てうちの牛舎で生まれ、A5ランク12番が出た母牛が残っている。分娩回数が多く子牛の価格が安くなっている牛もいるが、苦楽を共にした仲間だからこそ、最後まで面倒を見て、一緒に生きていく」と信念を貫く加悦さん夫妻です。

家畜診療だより

元気な子牛の鍵は
初乳です



南あわじ家畜診療所
しおみ
塩見ひかる



病気にかかりやすい子牛とかがりにくい子牛の違いは何でしょうか。その答えの一つに、初乳があります。初乳は、母牛が分娩後最初に出すお乳を指します。初乳には免疫グロブリンという成分が含まれていて、これを子牛が飲むことで病気に対する抵抗力が付きまします。子牛は出生後時間がたつにつれて、免疫グロブリンを吸収できなくなりまします。生後6時間で50%、24時間では0%まで低下するといわれており、出生後早期に初乳を飲ませる必要があります。しかし、子牛が起立できず、自力で初乳を飲むことができません。

乳を飲めない場合があります。また、母牛の産歴や栄養状態により初乳量や免疫グロブリン量が少ないこともあります。そんなときには、初乳製剤の活用をお勧めします。初乳製剤には、免疫グロブリンはもちろん、栄養成分、成長因子などがしっかりと含まれています。母牛が初産もしくは高齢の場合や、子牛が出生後2~3時間たっても起立しないような場合には、補助的に与えるようにしましゅう。初乳をしっかりと与えて元気な子牛を育てましよう!



初乳製剤

今回は、2004年に発生した台風23号の豪雨をきっかけに、集落みんなで一致団結し復興を遂げた、淡路市の株五斗長営農の山本晴祥さん(71)にお話を伺いました。

Q.五斗長たまねぎの特長を教えてください!

風が強い西海岸では、海からの風により天然のミネラルが畑に運ばれ、甘みの強いタマネギを育みます。また、厳しい冬の寒さで実がしっかりと引き締まり、シャキッとしたタマネギになります。現在、従業員12人で年間約250トンを生産しています。

Q.台風23号による水害がもたらした影響は?

ため池の決壊でこれまでの生活を奪われてしまいましたが、地域の暮らしを守り、次世代へとつないでいこうと集落営農を実践するきっかけになりました。台風が来なければダムの建設やほ場整備、五斗長営農の設立がまだ先の未来だったかもしれません。

Q.ざばり!今後の夢や目標は?

集落営農でこれからもきれいな田畑を守り続け、「いつかきっと帰りたい

なる”地域にしていきたいです。そのためにも、五斗長にもっと人が呼ばれたいと思います。

Q.最後に、農業従事者の皆さんへ一言!

1人では難しいことも仲間がいれば頑張れる。みんなで高め合っていこう!!

五斗長が大好き!



「5月3日(ごっさの日)にはたまねぎまつりを開催! 早生タマネギが食べられます」と山本さん(右)。従業員の中田さん(中央)、西田さん(左)と

次回!新年号の取材先は...



神戸・阪神に決定!

第3回もお楽しみに!
企画広報課 小西

スウィーツを溺愛している所長の太西、お酒とチューブ鑑賞が趣味のいぶし銀の安田、野球ではエース、農業でもエースを目指す丸山、8月入組の期待のルーキー野崎、事務はお任せの古後の5人で、親身かつスムーズなご案内ができるよう頑張っております。組合員農家の皆さま、今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いたします。



契約書類の確認は念入りに

知って/見ても
NOSAI

三木事務所



「吉川温泉よかたん」では無料で足湯に入れます。併設の「山田錦の館」でお土産もぜひ!

ガンバレ!!
農家を
応援し隊
第2回
ごっさ
五斗長たまねぎ



兵庫県を6つに分け、くじで当たった地域へ突撃取材!



水害復興時に出土した五斗長垣内(ごっさかい)の遺跡。弥生時代の鉄器づくりのムラとして国指定史跡となっています。復元した鍛冶工房建物からは美しい景色を眺望できます